

神の約束の真実

へブライ人への手紙六章13〜20節

そこで、神は約束のものを受け継ぐ人々に、ご計画の不変であることを、いつそうはつきり示そうと考え、誓いをもつて保証されたのです。(17)

キリスト教信仰の土台は、神の約束の言葉への揺るぎない信頼にあります。もし神の言葉が信じられなくなるとき、私たちの信仰は土台を失うことになります。私たちの周りに起こってくる様々な出来事は、神の言葉の真実さに疑問を投げかけてきます。そのような中で、神の約束は真実であるという信仰が支えとなります。私たち人間の約束は変更されることがあっても、神の約束は絶対に反古になることはないと言語ります。信仰の父アブラハムも、望みが消え失せるような中でひたすら神の言葉に信頼を寄せ、それにより大きな祝福を得ることになりました。私たちの信仰は、何に土台を置いておられるでしょうか。神はご自身を指して、その約束が真実であることを保証しておられます。いにしへの聖徒たちのように、神の約束は決して裏切ることはないと、堅く信じようではありませんか。